

冬場に気をつけたい！高齢者に多い事故

火が衣服に燃え移った

事例

ガスコンロとその周辺が焼け、1人が死亡する火災が発生した。(2011年1月 千葉県)

原因

ガスコンロで調理中、衣服にコンロの火が燃え移ったものです。



ストーブの近くに置いた毛布が発火

事例

電気ストーブとその周辺が焼け、1人が死亡する火災が発生した。(2012年2月 石川県)

原因

電気ストーブを使用中、周囲に置いていた毛布や衣類などが触れて、発火したものです。



タンクのふたが外れて火災

事例

住宅が全焼して1人が死亡、1人が重傷を負った。現場に石油ストーブがあった。(2009年1月 千葉県)

原因

給油の際、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分だったためにセット時にふたが外れました。その状態で点火操作を行ったため、こぼれた灯油に着火したものです。



調理中は、ガスコンロに近づき過ぎないでください。火に直接触れていなくても、放射熱により発火することがあります。また、調理中はその場を離れないでください。

石油ストーブに給油する際は、ストーブの火を消してください。給油後は、カートリッジタンクのふたを確実に締めてください。

ストーブの近くに布団や新聞紙など燃えやすいものを置かないでください。洗濯物の乾燥に利用しないでください。また、就寝時は使用しないでください。

スプレー缶が破裂し、火災

事例

石油ファンヒーターの近くから出火し、住宅を全焼して1人がけがをした。(2013年1月 神奈川県)

原因

石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶がファンヒーターの温風で加熱され、内圧が上昇して破裂し、可燃性ガスにファンヒーターの火が引火したものです。



スプレー缶をファンヒーターの前に置いていたところ、熱で膨張して噴き出したガスに引火しました。(再現実験)



カセットボンベやスプレー缶などをストーブやガスコンロなどの熱源の近くに置かないでください。加熱されると内圧が上昇して破裂し、噴き出した可燃性ガスに引火して爆発し危険です。

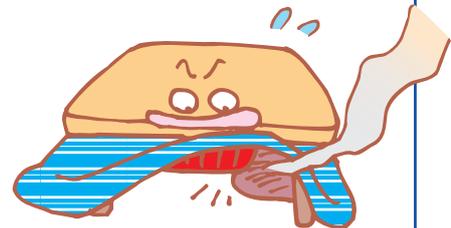
電気こたつの掛け布団から発火し、火災

事例

使用中の電気こたつとその周辺を焼く火災が発生した。(2012年4月 兵庫県)

原因

電気こたつの中に掛け布団を押し込んで使用していたため、ヒーターユニットの保護カバーに触れて、焼けたものです。



電気こたつの中にこたつ布団や座いす、座布団などを押し込まないでください。洗濯物を乾かして火災になった事例もあります。

電源コードをこたつの脚で踏んだり、折り曲げたりすると断線し、火災の原因になるので注意してください。

⚠️ このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。

